

**授業概要**

企業による情報発信といえば、顧客・消費者向きの商品広告、メディア向けに広報活動、それにリクルート関連などが挙げられます。本講義は、企業の株主・投資家向けの情報発信活動（IR）を取り上げます。金融商品法や取引所規則などによる法的開示や各社の自主的な情報開示を具体的に追って、金融・証券市場での投資家の対応についても考えます。

**授業計画**

第1回	ガイダンス/レポートの書き方/新聞・テレビ・ネットの企業情報
第2回	企業情報における広告、広報、IR
第3回	日本企業の発信情報（1）印刷情報とデジタル情報
第4回	（2）法的規制の情報発信/任意の情報発信
第5回	企業が発信する会社情報（I）印刷情報（1）有価証券報告書と決算短信
第6回	（2）決算説明会配布資料
第7回	（3）株主総会：議決権行使書
第8回	（4）株主通信
第9回	（5）アニュアルレポート/CSRレポート
第10回	（6）統合報告書
第11回	企業が発信する会社情報（II）デジタル情報（1）企業ウェブサイト
第12回	（2）企業IRサイトの展開
第13回	（3）ソーシャルメディアの時代
第14回	企業情報を求める市場インテリジェンス （1）証券アナリスト/ファンドマネジャー/取引所/監査法人/商事弁護士
第15回	（2）米国IR協会（NIRI）/英国IR協会（IRS）
第16回	

**到達目標**

企業が株主・投資家向けに発信する情報開示（IR）を通じて、金融・証券市場を左右する情報の流通を学んで、金融・証券分野に対する確かな知見を習得する。

**履修上の注意**

講義は金融・証券の動きを個々の企業を実例として取り上げるので、企業や市場の情報に関心を持ち続けたい。

**予習復習**

金融・証券市場を対象とするので、毎日の経済の動きや市場動向をチェックしておきたい。

**評価方法**

受講態度不良者は「不可」の評価とします。評価は授業中の議論、複数回にわたるレポートなどを総合的に判断し、評価します。そして講義への積極的な参加（積極的な発言など）で加点します。

**テキスト**

講義向けに資料を用意し、また参照したい書籍や文献も講義の中で、適宜、指示します。次の図書は参考になる。

「大買収時代の企業情報」米山徹幸 朝日新聞社、2005年。